

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194600258		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームしらかば		
所在地	埼玉県深谷市西島町2-21-11		
自己評価作成日	令和 3年 12月 1日	評価結果市町村受理日	令和 4年 3月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 3年 12月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは駅から徒歩10分弱ほどの好立地にあり、静かな住宅地に囲まれております。施設内は明るくバリアフリーで車椅子の入居者様も安心して生活できる環境と設備を整えております。地域との関わりを大切にしたいと考えイベント行事には積極的に参加するよう心がけています。食事は全て手づくりで家庭的な温かみのあるものを提供、お祝い事にはお祝い膳を提供したり季節の行事に沿った食事を提供しています。コロナ禍でなかなか外出や慰問が出来ていない状況でもご利用者様が退屈することなく安心して生活ができるよう、また季節感を感じて頂けるよう壁面にも力を入れ、楽しい時間を過ごして頂いております。入居されている利用者様一人ひとりの暮らしや生活リズムを大切にケアを心掛け、その方の意思を尊重した支援を行うよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、尊厳を大切に、利用者の能力に応じた役割を持てるよう支援をしている。コロナ禍で外出に制限がある中、利用者に季節を感じてもらえるように事業所内の壁面には利用者と一緒に作成したお正月、クリスマス、節分等の季節の作品を飾っている。食事は職員が交代でオリジナルのメニューで食材調達から関わり、手作りの食事を提供している。特に利用者からのリクエストはないが、旬の食材や食欲具合から人気のメニューを察し、提供することで利用者に喜ばれている。又コロナ禍以前は、外出行事として、事業所主催の外出行事だけでなく、法人主催のバス旅行や、ホテル宿泊、車いすの方とコンサートに出かける等で楽しんでた。コロナが収束した際は、また行事を開催できるよう検討している。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	しらかば独自の理念を考え、毎月のホーム会議で理念の唱和をしている。また、毎日のケアの実践に取り組んでいる。	法人理念を基に事業所独自の理念があり、支援の実践に活かしている。カンファレンス等では個人の個性や性格を把握し、利用者のその人らしさ、個人の尊重を大切にしたい支援ができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントには積極的に参加させて頂いております。今年度はコロナの影響で参加ができませんでした。	町会に加入し、回覧等で地域の情報を知ることができる。自治会長の協力で子ども神輿に立ち寄ってもらったり、いきいきサロンに参加したり、市のお祭りに出かけていたが、コロナ禍で現在は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議等で認知症についての勉強会を行い、ホーム会議でも月ごとにテーマを決めて勉強会を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の推進会議を開催し、ご家族様や区長さん、民生委員の方々からも意見を伺い、事業所からも活動報告や現状をお伝えし情報交換をすることでサービスの向上に努めているが今年度はコロナの影響で開催は出来てません。	書面開催をしている。活動報告、現状報告等を、行政、民生委員、社会福祉協議会、自治会長に配布し意見を貰えるようにしている。家族を含め関係者からの意見やアドバイスを支援に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には行政機関の担当者の参加もあり、情報交換をしている。	コロナ禍前は、直接出向き相談をしたり役所からはハザードマップのアドバイスを受ける等連携をしていたが、現在は出向くことを控えている。パソコンで毎月利用状況(空き室)の報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で統一したケアが出来るよう、ホーム会議で話し合い、事業所全体で身体拘束のないケアに取り組んでいる。欠席した職員にも申し送りをしている。	年4回、身体拘束の研修を行う他、毎月おこなうホーム会議や必要に応じて、身体拘束について話し合いをしている。フィジカル、スピーチ、ドラッグロック等について、新人職員にも正しく理解できるように研修し、支援に繋げるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、言葉の虐待等全てにおいて職員間で声掛けし、虐待のないよう意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在の入居者様は成年後見制度を利用されている方はおりませんが、必要に応じて成年後見制度の活用ができるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は重要事項の説明を行い、ご家族様、ご本人の不安や疑問を尋ねご理解した上で契約を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が訪問や面会に来られた際にはご意見や要望を伺える機械を設けているが、ご利用者様からの意見は難しい方もいるので利用者様の状態に合わせて対応させて頂いている。	家族の来所時や電話等で意見を聴くようにしている。また法人による全グループホームに向けてのアンケートをおこなっている。無記名で回答をもらい、事業所に当てはまる内容を見直し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議で気付きや意見をお聞きし、職員全体で話し合いの場を確保反映させている。	職員から日常の支援の中で、「こうしたらどうか」という意見があり、その都度「やってみましょう」と実践に繋げている。その他年1回、法人本部を交えて個別面談を行い、意見を聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年毎に各自で自己評価をして頂き、今後の目標も挙げて日々の業務に努めている。また、毎月1回は連休をシフトに組み込んだり、家庭状況に応じてシフトに無理がないよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や技量に応じて法人内外の研修に出来る限り参加するよう努めている。また初めの内は既存の職員と同じシフトにし働きながらトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に加盟して研修会等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、要望等を事前に聞き取り、職員間で共有してご本人様の安心を確保出来るよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思っていること、要望等を事前に聞き取り、いつでも相談していただけるような関係作りに努めている。また日々のご様子もご家族様に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援内容をスタッフ間で検討し、必要に応じて他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の得意なことを活かした作業をお願いしたり、洗濯物たたみやモップ掛け等の家事と一緒にするなど、支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪された際には日頃の様子を伝えている。また、以前はご家族様と一緒に外出してもらうなどして共に支え合い協力して支援を行っていたが今年度はコロナの影響で外出はできてません。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのご友人が来訪された際にはご利用者様とゆっくりお話ができる場所を提供している。また、以前から通っていた馴染みのお店に買い物に出掛け、関係が途切れないよう努めている。	友人が来場したり、馴染みのお店に出かける他、家族と外食する等の支援をしていたが、コロナ禍で外出はできないので、お菓子屋さんや美容院等の話題で個々の馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	かるたやボール投げ、しりとり、言葉遊びなどを楽しまれたり、発語の難しい方や身体の不自由な方には職員が調整役になって孤立することなく支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了してもご家族様からの相談を伺いフォローできるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者様の日々の思いや意向をくみ取り、把握に努めている。困難な場合はご利用者様からの情報も把握し検討している。	職員に利用者一人ひとりの情報、生活歴等を把握するように申し送り時に伝えている。「家に帰りたい」という気持ちや、意思伝達が困難な利用者の気持ちを、情報を基に本人本位に検討し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしぶりをご本人様やご家族様から伺い、職員間でも共有してサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や様子をケア記録に記載し、現状の把握に努めている。また、体調の変化や様子も職員間で抜けのないよう申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のホーム会議でケアマネさんが中心となってモニタリングを行っている。職員間でケアの内容を検討し、統一したケアを行えるようケアプランを作成している。	入居時は本人、家族から意向や生活歴を把握し、1ヶ月の暫定プランを作成してから、支援をしている。その後は更に職員からの意見や提案を取り入れ見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に記入し、申し送りノートも併用して情報を共有し実践への反映をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス内容にない気づきが生じた際には、職員間でその都度話し合い検討し、既存のサービスに捉われない柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、慰問などを依頼して、各自がそれぞれ楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な往診と医療連携の訪問によって急変時でも支援が受けられる体制になっている。往診を受けていない方はご家族様の協力のもと適切な受診ができています。	月2回、訪問診療があるが、以前からのかかりつけ医にかかることも可能。看護師は週1回訪問し、健康状態を確認し、医師との連携を図っている。訪問診療は24時間対応で緊急時の対応、指示を受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の訪問が毎週あるため、皮膚観察や体調の変化を診て頂き、体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には病院関係者との情報交換や相談を行い、把握に努めている。また、ご家族様にも様子を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から医師と家族のムンテラを取り交わし、重度化した場合はご家族様にホームとしてできる事を十分に説明し、必要に応じて医師や看護師を交えてケアの方針を検討し、チーム支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期の説明を行い、延命についてや救急搬送等について「〇〇の場合〇〇する」を確認している。食事量や尿量の減少で、医師、看護師、家族と改めて話し合い、本人・家族の意向を尊重して、看取りの支援をおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故が発生した際には速やかに看護師や管理者に報告し、連絡できる体制になっている。会社のマニュアルはあるが、職員間で技量に差が生じているため定期的な訓練をやっていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。また、毎日夜勤者が火気関係の自主検査をチェックしている。	年2回の内1回は夜間想定とし、訓練をしている。火災、水害、地震マニュアルを作成している。通報、誘導、消火の訓練を行い、全職員が避難できる方法を身に付けるよう努めている。備蓄品を保管している。	災害対策として、避難訓練に地域の参加を呼びかけ、災害時に協力を得られるような対策をとることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けやケアに職員全員で努めている。会議でも接遇について話し合っている。	職員会議で研修を行い支援に繋げている。書類は書庫に保管し、申し送りやミーティングではイニシャルを使用するようにしている。排泄や入浴は羞恥心への配慮を行い、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人様の思いや希望を出せる時間を作り、自己決定できる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切に、希望や体調に配慮して1日1日を過ごして頂けるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みの衣服を自己決定して頂き、その日の気候や季節に相応しい衣服を着て頂いている。自己決定できない方は職員が選び確認してから着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な献立を作成し、ご利用者様にも好きなメニューをお聞きし提供している。また、季節感を味わって頂けるようイベント食やお祝い膳も提供している。	職員がメニューを考え、食材発注から関わり調理をしている。利用者はテーブル拭きをしている。季節の果物や、旬の食材を使用した栗ご飯、冷やし中華、おでん、ちらし寿司等、利用者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を確認、把握して適量を提供している。水分量は1日を通して最低1Lは確保できるよう測定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし口腔ケアをして頂いている。やり方が分からない方には説明や一部介助、全介助をして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンに合わせて声掛けを行っている。オムツの方は漏れのないような当て方を工夫し、使用を減らせるよう努めている。	排泄チェックにより、個々のリズムを把握しトイレ誘導をする他、食事前や定時の声かけをしている。リハビリパンツやオムツ着用の人でも気持ち良く排泄できるように、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材を取り入れたり、乳製品や水分の摂取に努めている。入浴時にはお腹周りのマッサージをして頂いたり、適度な運動を行うよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できる体制作りをしている。基本的には各自が均等に入浴出来るよう入浴表を設定しているが、当日対象者が体調不良や外出・外泊等で入浴できない際は入れ替えをし、柔軟に対応している。	基本週2回、入浴支援をおこなっている。入浴嫌いな人は理由を探り、希望に応じることで入浴を楽しんでもらっている。毎日入浴剤を使用し、色と香りを楽しみ、足浴しながらリラックスできる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて自由に休息できるよう支援を行っている。季節に合わせて居室の温度や寝具を調整し、安心して眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報を保管し、職員がいつでも確認できるようになっている。日付や名前は職員2名以上で確認し内服の際は日付と名前を読み上げて誤薬のないよう努めている。症状の変化の際はナースにも報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掛けや洗濯物たたみなどのお手伝いをして頂いている。季節ごとの行事やレクリエーションにも参加して頂き、散歩や外出、外気浴なども計画して気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望に沿って施設周辺の散歩や買い物に出掛けている。お花見や買い物ツアーなども計画し、出掛けられるよう支援している。今年度はコロナのため出来ていません。	以前はお花見や市の納涼祭、衣料品の買い物に出かけていた。家族と自宅に外泊したり、初詣に出かける人もいたが、今は自粛し、施設周辺の散歩やベランダで気分転換を図っている。行事食や飾りつけ等で工夫して支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で預かり金としてご家族様より頂いている。希望に応じて必要な物品を購入したり、買い物などの支援をして金銭管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族様や大切な人への電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、居室やホール、玄関、トイレなどの清掃を行い、居心地良く過ごせるような環境美化に努めている。季節感を感じて頂けるよう季節毎に壁面や飾りつけにも工夫している。	季節感のある作品を利用者と一緒に作り、飾っている。食堂では体操やゲームの他、お正月、納涼祭、運動会等の行事が行われ、楽しみの場所となっている。定期的な換気や掃除、消毒で清潔を保ち、居心地の良い共有空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間にはソファを設置し、気の合った利用者様同士で談笑して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みのもの、好みのものを持ち込んで頂き、ご本人様に居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	馴染みの家具やテレビ、自身の作品を持ち込み、個々に合わせた配置を行い、居室ドアには名前を貼り自分の部屋を分かり易くする等、居心地良く過ごせる工夫をしている。掃除はできる人は一緒におこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不要なものや導線の妨げになるようなものは避け、安全に出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。また、トイレや浴室には認識しやすいように表示をしている。		